

組込みシステムに適した コンポーネントシステムTECSの最新状況 ～普及期に入ったTECS～

安積 卓也

大阪大学大学院基礎工学研究科
takuya@sys.es.osaka-u.ac.jp

目次

- TECSの基本
- ASP3のSyslog, シリアルドライバ、ログタスクの実装に採用
- TECSの利点
- mrubyプラットフォーム

TECS (TOPPERS Embedded Component System)

- 組み込みシステムでコンポーネントベース開発を実現

- **再利用性**の向上→**生産性**の向上

補足：

コンポーネント=ソフトウェア部品

- インタフェースの**明確な定義**

- C 言語のプロトタイプ宣言の曖昧さを TECS がカバー

- > **さまざまなコードを自動生成可能**：例は後で説明

- その他の特徴

- マルチインスタンス化が容易（デフォルト）

- 同種のコンポーネントを複数生成

- ダイナミックバインディング（相当）を実現

- 関数テーブルを自動生成

- カプセル化できる

- 関数インタフェースのみで結合

- 静的な生成と結合

- 実行時オーバヘッド、メモリオーバヘッドの低減



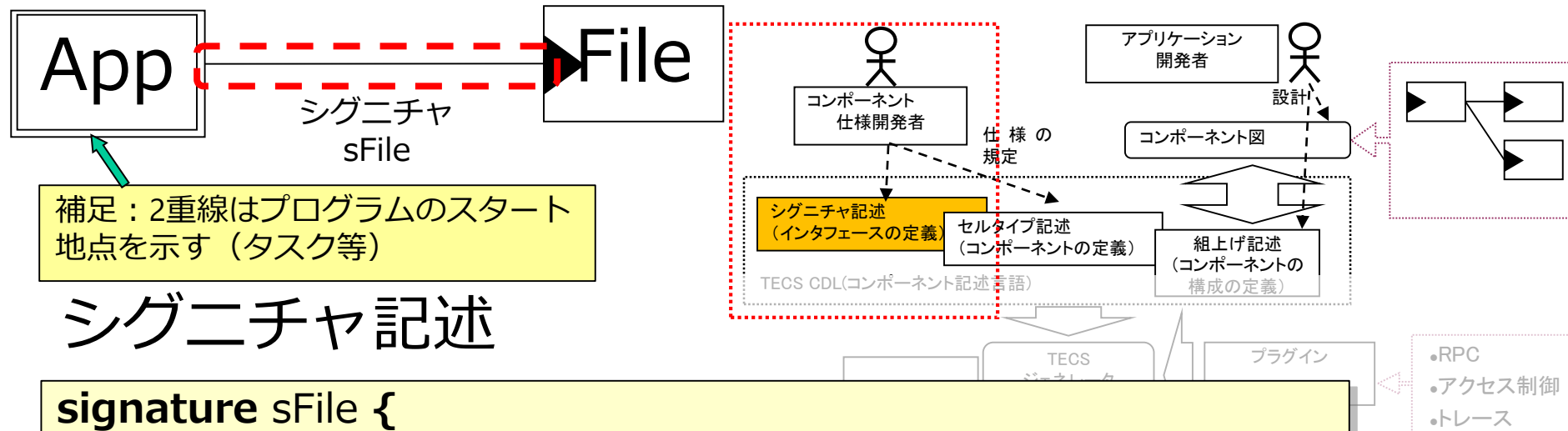
ここを中心に説明

TECS 開発の流れ

これだけ知れば、始められる！

- TECS CDL (コンポーネント記述言語)の記述
 - コンポーネント間のインタフェースの記述
 - シグニチャ (signature)記述
 - コンポーネントタイプの記述
 - セルタイプ (celltype) 記述
 - コンポーネントの設置と結合
 - 組上げ記述 (cell の記述)
 - ≡ コンポーネント図のテキスト表現
- C 言語の記述
 - 振る舞いの記述
 - セルタイプコード = **C 言語**によるプログラム

TECS CDL : インタフェースの記述 (シグニチャ)

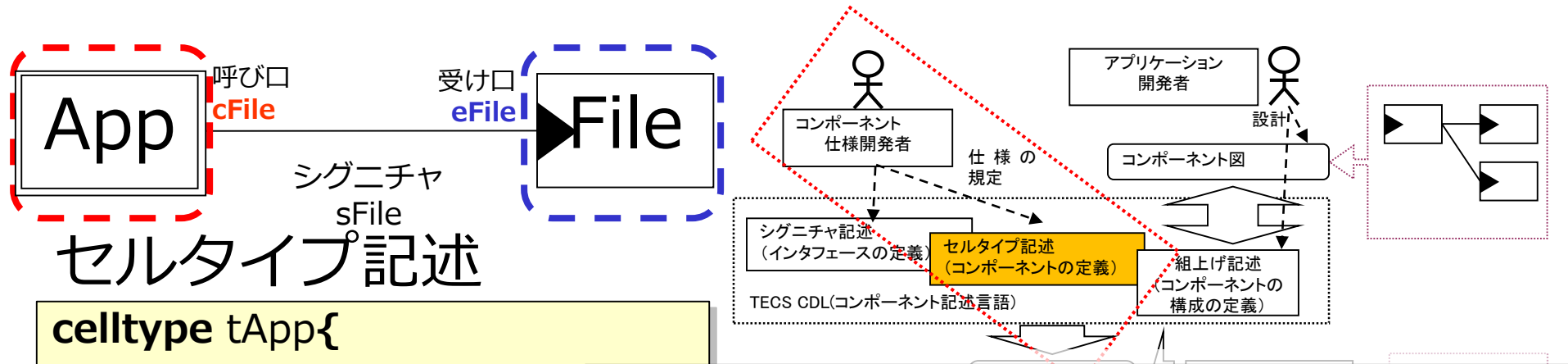


signature sFile {

```
ER open( [in,string]char * fileName, [in]int16_t mode);
ER close(void);
ER read( [out,size_is(length),count_is(*count)]int8_t * buffer,
        [in]int32_t length, [out]int32_t *count);
ER write( [in,size_is(length)]int8_t *buffer,
        [in]int32_t length, [out]int32_t *wroteLength);
ER seek( [in]int32_t offset);
};
```

- ・ [] 部分を取り除くと、C のプロトタイプ宣言になる
- ・ in, out は入出力方向の指定、size_is, count_is, string はポインタの指定子で、配列長さ、有効要素数、文字列を指定

TECS CDL : コンポーネントの定義 (セルタイプ)



```
celltype tApp{
```

```
// 呼び口(call) の設置
```

```
call sFile cFile;
```

```
};
```

- 属性は、デフォルトの値を指定できる(未指定の場合、セル定義時に値指定が必須)
- (内部)変数は、属性を参照して初期化できる

```
celltype tFile{
```

```
// 受け口(entry) の設置
```

```
entry sFile eFile;
```

```
attr { // 属性 : コンポーネント (セル) ごとの定数  
    int16_t buffer_len = 512;
```

```
};
```

```
var { // (内部)変数 : セルごとの変数
```

```
[size_is(buffer_len)]
```

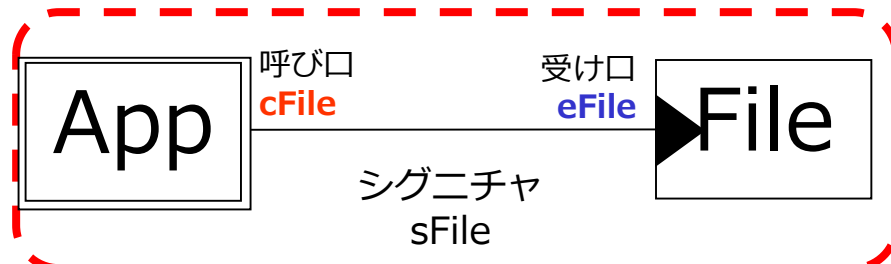
```
int8_t *buffer;
```

```
int fd; // ファイル記述子
```

```
};
```

```
};
```

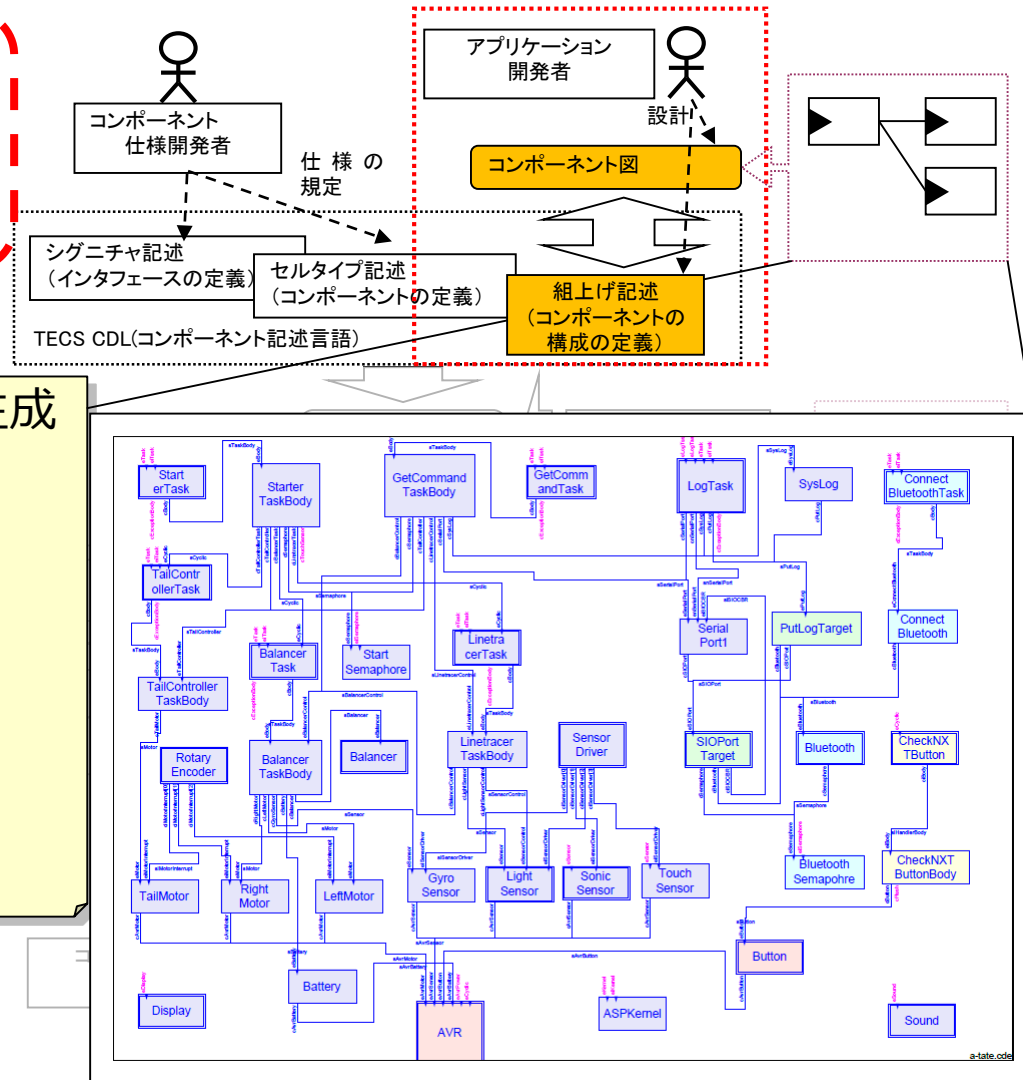
TECS CDL : コンポーネントの設置と結合



組上げ記述

// コンポーネント (セル) の静的な生成

```
cell tFile File{  
    buffer_len = 64; // 属性  
};  
cell tApp App{  
    //呼び口を受け口に結合  
    cFile = File.eFile;  
};
```



tecscde(GUIツール)



TOPPERS

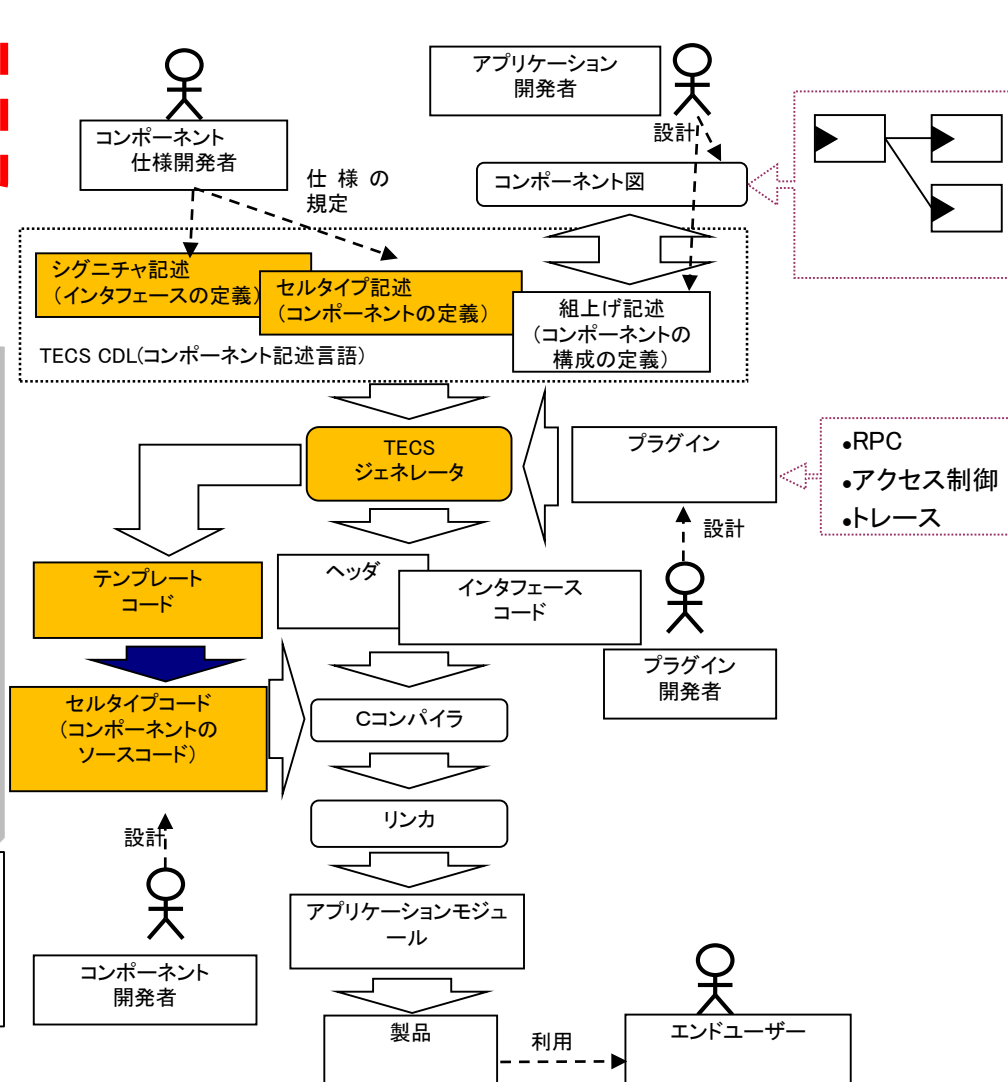
C言語：振る舞いの記述



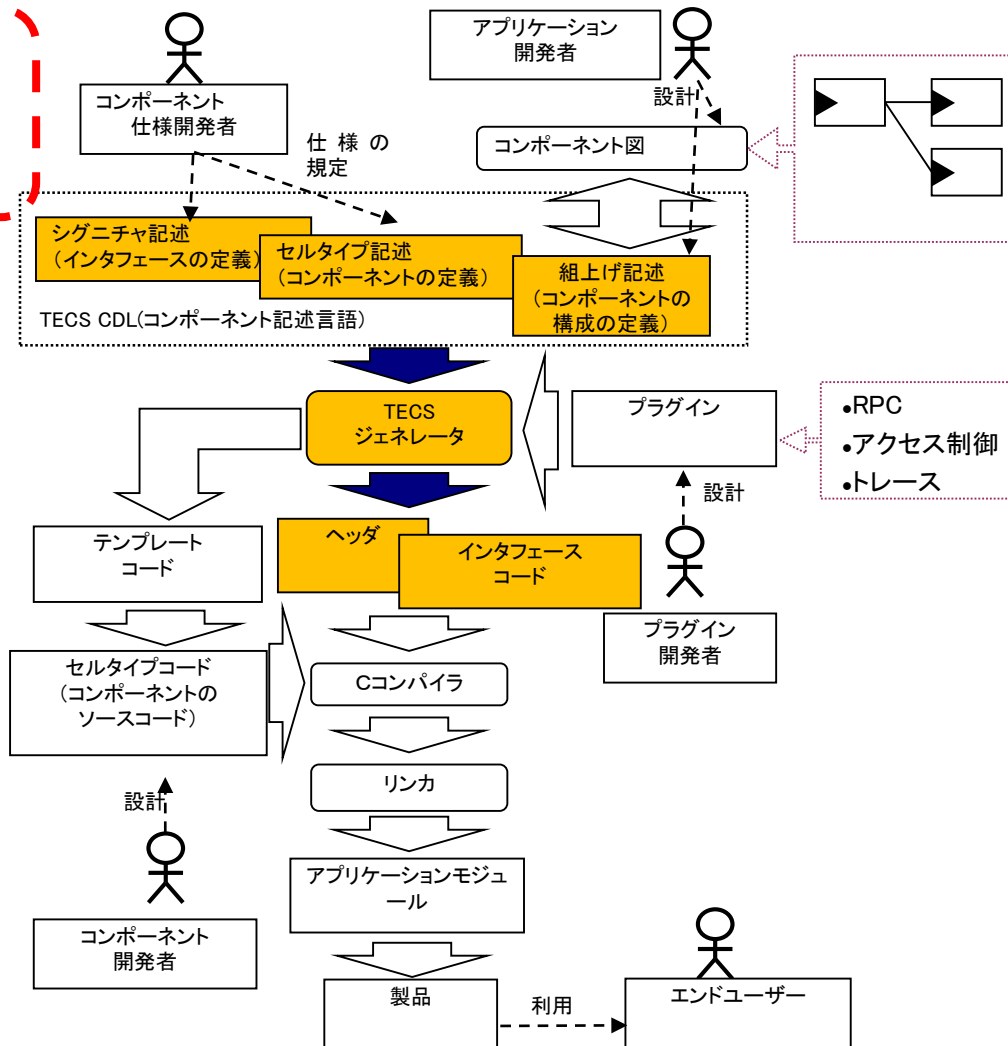
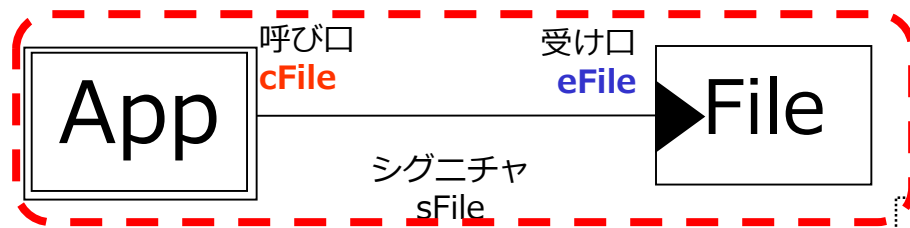
テンプレート

```
[tFile.c]
#include "tFile_tecsgen.h"
// 受け口関数 (受け口名)_(関数名)
ER      eFile_open( ... )
{
    コンポーネントの振る舞いを記述
}
ER      eFile_close()
:
```

- TECS ジェネレータがテンプレートを生成するので、それを埋める形でセルタイプコードを作成できる



TECSジェネレータ：インタフェースコード生成



- コンポーネント間をつなぐインタフェースコードを TECSジェネレータが自動生成
- 結合状況に応じて関数テーブルを生成したり、属性や変数等に応じてROM部(定数)、RAM部(RAMを初期化するコード)を生成

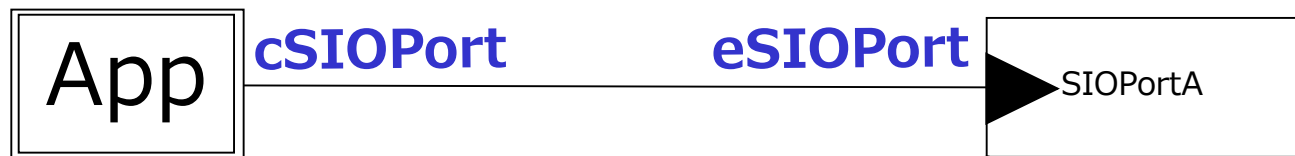
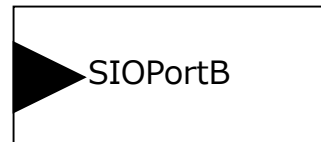
再利用を上げる仕組み：App

インタフェース定義

```
signature sSIOPort {  
    void    open(void);  
    void    close(void);  
    bool_t  putChar([in] char c);  
    char    getChar(void);  
    ...  
};
```

補足：SIO：Serial Input Output
TOPPERSでは、ターゲット依存部のシリアルドライバ

※実際のアプリケーションは
SerialPort（ターゲット非依存）を利用することが多い。



```
int main(){  
    ...  
  
    cSIOPort_putChar(c);  
    インタフェース名 関数名  
    ...  
}
```

```
...  
bool_t  
eSIOPort_putChar( CELLIDX idx, char c)  
{  
    ...  
    if (uart_putready(p_cellcb)){  
        sil_wrw_mem((void*)  
            (ATTR_uartBase + USART_THR),c);  
        return(true);  
    }  
    return(false);  
}  
...
```

再利用を上げる仕組み：App

インタフェース定義

```
signature sSIOPort {  
    void    open(void);  
    void    close(void);  
    bool_t  putChar([in] char c);  
    char    getChar(void);  
    ...  
};
```

App

```
int main(){  
    ...  
  
    cSIOPort_putChar(c);  
    インタフェース名 関数名  
    ...  
}
```

eSIOPort

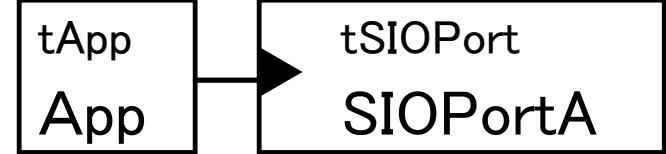
SIOPortB

cSIOPort

SIOPortA

TECSでは、SIOPortAとSIOPortBのどちらを利用する場合でも、App側の同じコード（C言語）を利用可能=>再利用性の向上

結合の実装構造の標準形



呼び側

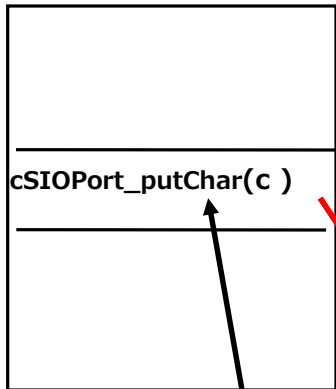
受け側

受け口関数テーブル

受け口スケルトン関数

```

ER tSIOPort_eSIOPort_putChar_skel( struct
    tag_sSig1_VDES *epd, char c)
{
    struct tag_tSIOPort_eSIOPort_DES *lepd
        = (struct tag_tSIOPort_eSIOPort_DES *)epd;
    return tSIOPort_eSIOPort_putChar( lepd->idx, c );
}
    
```



tSIOPort_eSIOPort_open_skel
tSIOPort_eSIOPort_close_skel
tSIOPort_eSIOPort_putChar_skel
tSIOPort_eSIOPort_getChar_skel

受け口
ディスクリプタ

&tSIOPort_eSIOPort_MT
&tSIOPort_SIOPortA_CB

受け口関数テーブルへの
ポインタ

受け側のセルC B

受け口関数

```

/* 呼び口関数マクロ (短縮形) */
#define cSIOPort_putChar( c ) ¥
    tSIOPort_cSIOPort_putChar( p_cellcb, c)
#define tApp_cSIOPort_putChar( p_that, c ) ¥
    (p_that)->cSIOPort->VMT->¥
    putChar( (p_that)->cSIOPort, c )
    
```

呼び側のセルC B

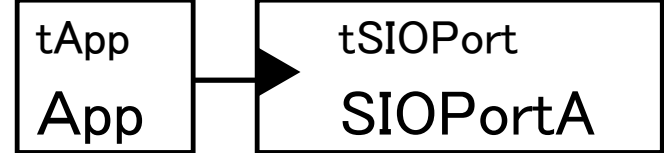
```

typedef struct tag_tApp_CB {
    /* call port */
    struct tag_sSIOPort_VDES *SIOPort;
} tApp_CB;
    
```

```

bool_t eSIOPort_putChar(CELLIDX idx, char c)
{
    CELLCB *p_cellcb;
    //エラーチェック省略
    if (uart_putready(p_cellcb)){
        sil_wrw_mem((void*)
            (ATTR_uartBase + USART_THR),c);
        return(true);
    }
    return(false);
}
    
```

結合の実装構造の標準形



呼び側

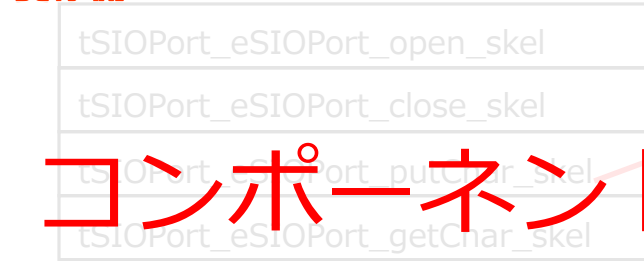
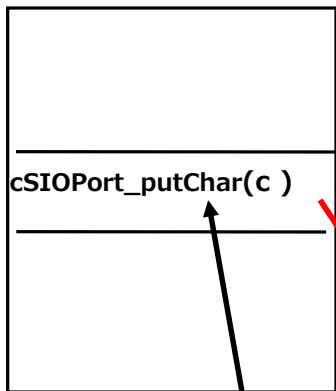
受け側

受け口関数テーブル

受け口スケルトン関数

コンポーネントの
構成によっては

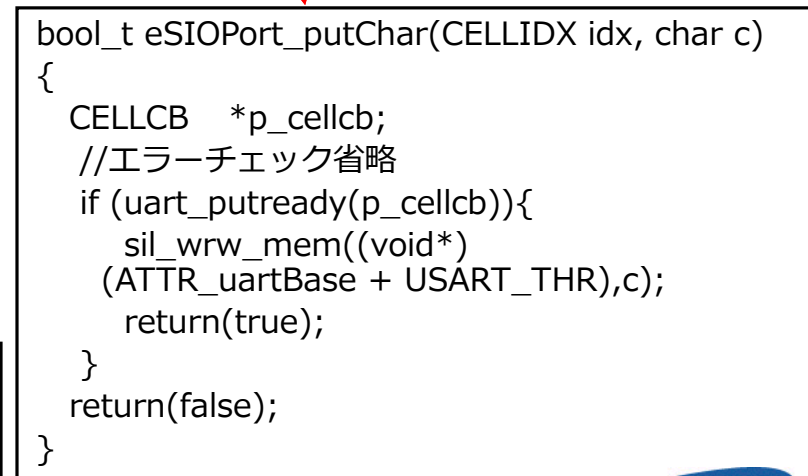
最適化で省略可



受け口関数テーブルへの
ポインタ

受け側のセルCB

受け口関数



TECSの適用イメージ①：プラットフォームへの適用

アプリケーションは、
既存と同様の実装（C言語）
TECSをライブラリとして利用
後述のASP3はこの構成

アプリケーション
モジュール(1)

アプリケーション
モジュール(2)

API

APIラッパ(オプション)

TCP/IP
プロトコル
スタック
(TINET, ...)

ファイル
システム

各種
ドライバ

その他の
ミドルウェア
(オープン／商品)

カーネル

(TOPPERS/ASP, FMP, HRP2, ATK, ...)

TECSコンポーネント

プラットフォーム

TECSの適用イメージ②：システム全体への適用

アプリケーション
コンポーネント(1)

アプリケーション
コンポーネント(2)

アプリケーションを含めすべての
要素をTECS仕様に準拠

(再利用性高)

実装言語はC言語

例：ETロボコン (NXT)

認定プラットフォーム

APIラッパ(オプション)

TCP/IP
プロトコル
スタック
(TINET, ...)

ファイル
システム

各種
ドライバ

その他の
ミドルウェア
(オープン／商品)

プラットフォーム

カーネル

(TOPPERS/ASP, FMP, HRP2, ATK, ...)

TECSコンポーネント

TECSの適用イメージ③：自動生成機構を利用

mruby：組み込みシステム向けにRuby軽量化したスクリプト言語
プログラマはプラットフォーム側（C言語）の知識がなくても利用可能

アプリケーション
mrubyプログラム

アプリケーション
mrubyプログラム

連携用のコードを自動生成

mrubyブリッジコード

TCP/IP
プロトコル
スタック
(TINET, ...)

ファイル
システム

各種
ドライバ

その他の
ミドルウェア
(オープン／商品)

カーネル
(TOPPERS/ASP, HRP2)

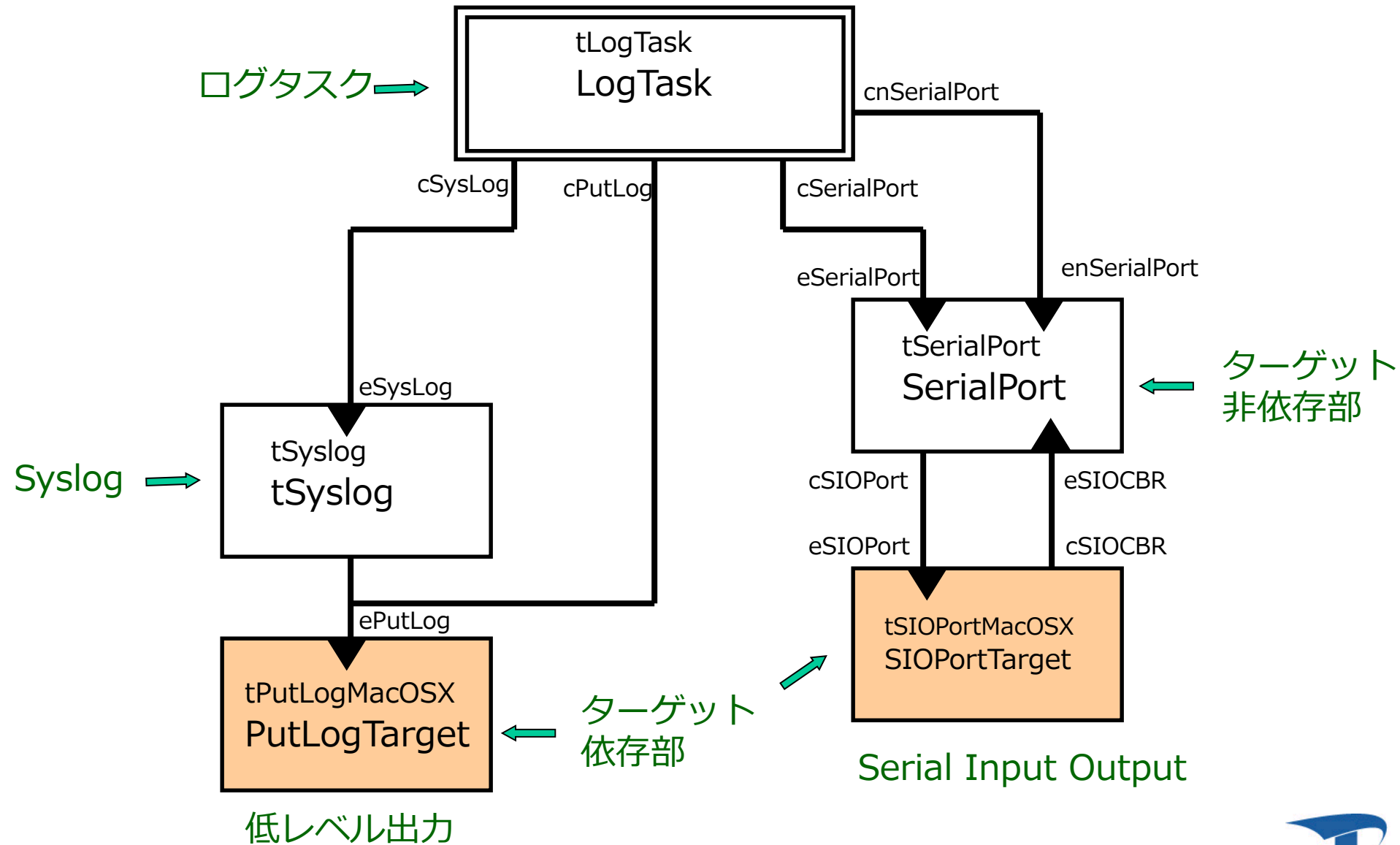
プラットフォーム

TECSコンポーネント

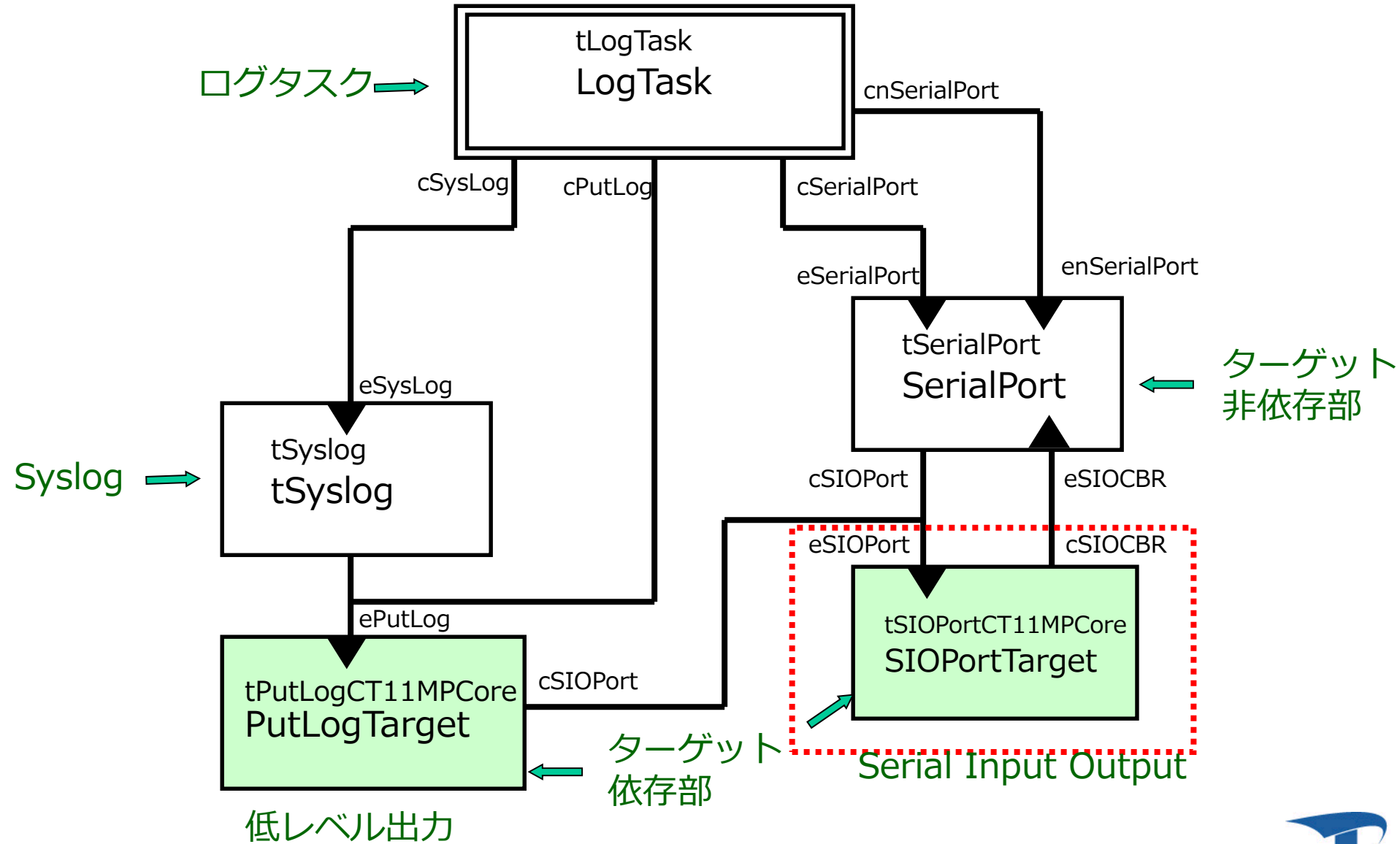
TECSがASP3のSyslog, シリアルドライバ、 ログタスクの実装に標準採用（予定）

- Syslogの出力先（シリアル、Bluetooth、LCD等）をプログラムを修正せずに変更可能
- △ ターゲット依存部のポーティングには、TECSの基本を覚える必要がある
 - TECSのすべての機能を使いこなすには、時間がかかるが、ポーティングに必要な最低限の知識であれば、それほど時間はかからない
- ポーティング初心者には、何を実装すればよいかは明確になる

ASP3 : ログタスク&シリアルドライバの例 (Mac)



ASP3 : ログタスク&シリアルドライバの例 (ARM)



SIOPortのポーティング例

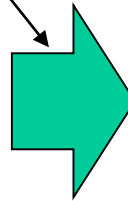


tSIOPortCT11MPCore
SIOPortTarget

TECSジェネレータが
テンプレートコードを生成

インタフェース定義

```
signature sSIOPort {  
    void    open(void);  
    void    close(void);  
    bool_t  putChar([in] char c);  
    int_t   getChar(void);  
    ...  
};  
  
celltype tSIOPortCT11MPCoreMain {  
    entry  sSIOPort eSIOPort;  
    ...  
}
```



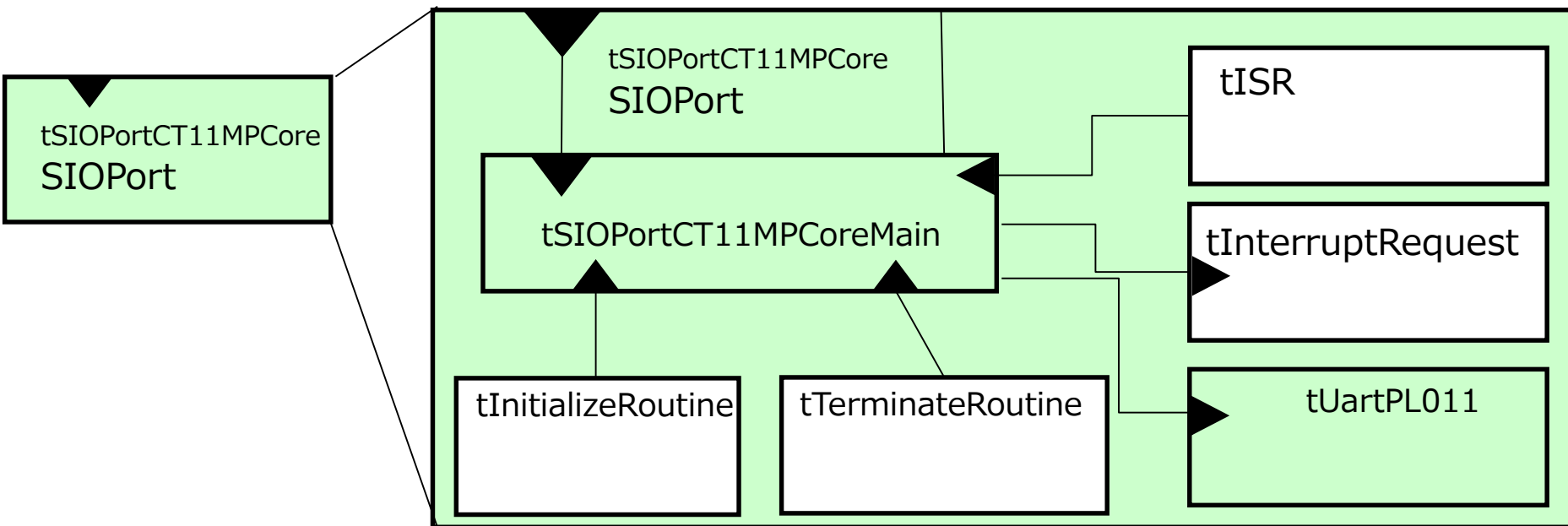
```
void  
eSIOPort_open(CELLIDX idx)  
{  
    CELLCB      *p_cellcb;  
    if (VALID_IDX(idx)) {  
        p_cellcb = GET_CELLCB(idx);  
    }  
}
```

ここにドライバの
コードを実装

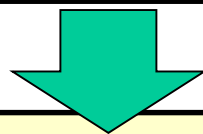
```
}  
void  
eSIOPort_close(CELLIDX idx)  
{  
    ...  
}
```

TECSの利点：複合コンポーネント&cfg

- 利用者はSIOPortが複数のコンポーネントで構成されていることを意識せずに利用可能



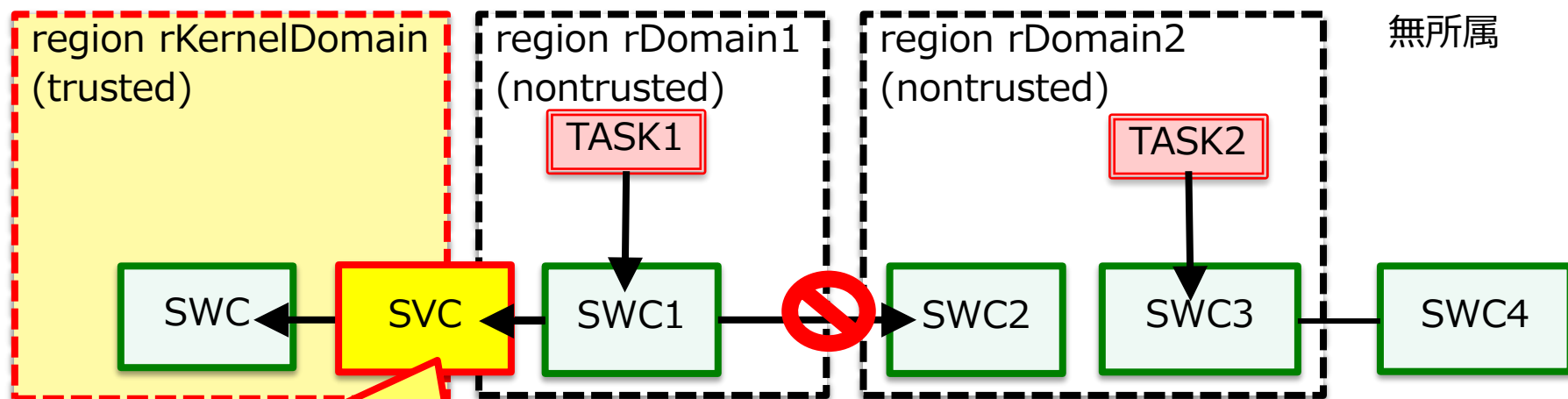
カーネルの設定ファイルの生成



```
CFG_INT(EB_IRQNO_UART0, { TA_NULL, -2 });
CRE_ISR(ISRID_tISR_SIOPortTarget_base_ISRInstance, { TA_NULL, &tISR_CB_tab[0],
EB_IRQNO_UART0, tISR_start, 1 });
ATT_INI({ TA_NULL, NULL, tInitializeRoutine_start });
ATT_TER({ TA_NULL, NULL, tTerminateRoutine_start });
```

TECSの利点：メモリ保護の設定（HRP2）

- コンポーネント記述からHRP2カーネルの設定ファイルを自動生成する
 - － リージョン（グループ化）を保護ドメインに対応させる
 - リージョンに所属するタスクおよび、コンポーネント（セル）固有のデータを、対応する保護ドメインに所属させる
 - － **設定ファイル**をTECSジェネレータにより出力

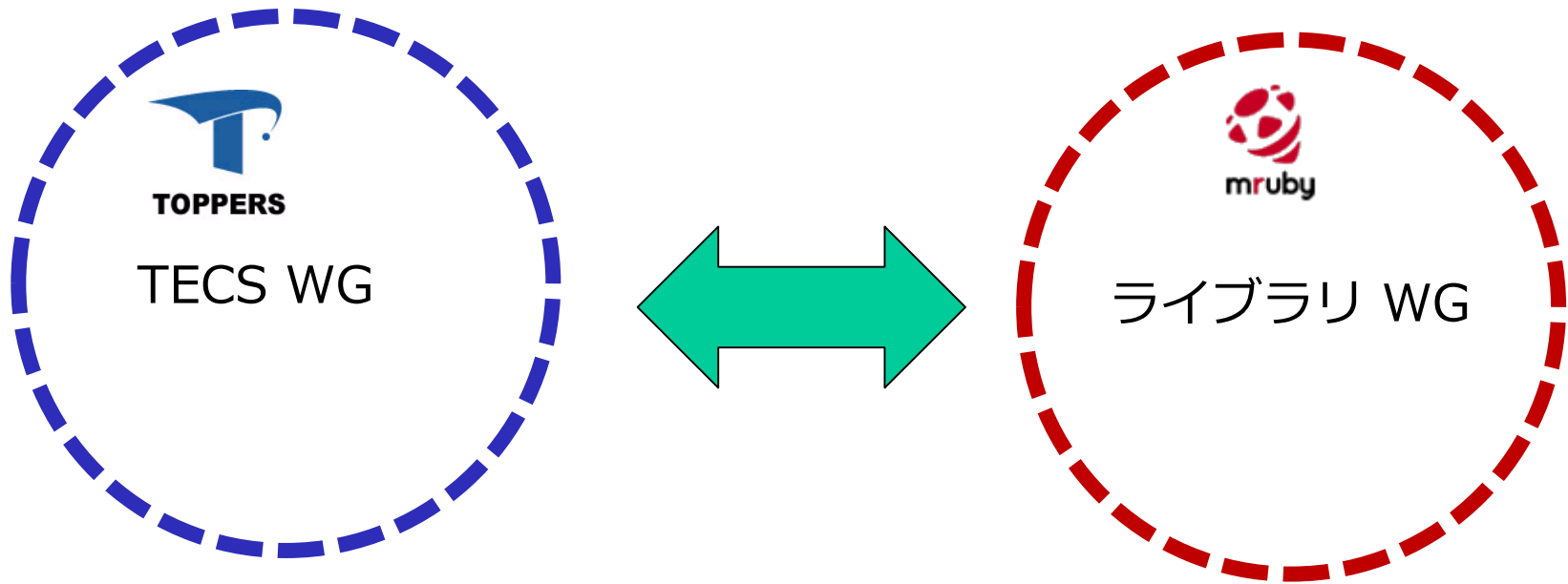


パーティション間の通信処理を行うコンポーネント

この機構の内部をユーザが意識する必要はなく、さらに、拡張サービスコール用の設定ファイルも自動生成される

mrubyプラットフォーム

軽量RubyフォーラムとTOPPERSの協業



- 相互に広めあう
- 両技術を組み合わせて活用する

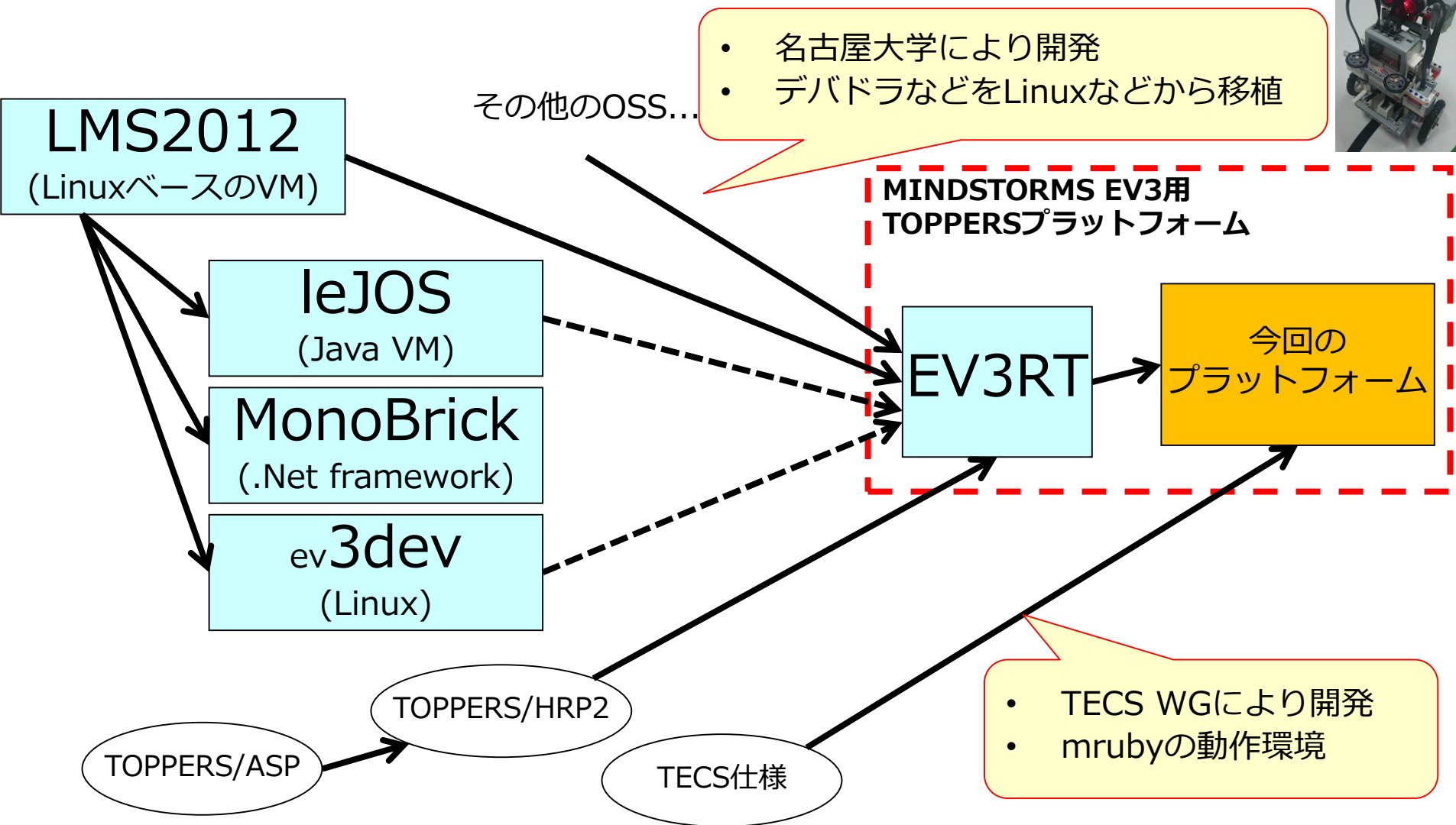
協業内容（2012年～）

- TOPPERS開発者会議（2012/10/21-22）
- ETスペシャルセッション（2012/11/15）
 - TECSの概要とmrubyとの連携（安積）
- TOPPERS TECS 合宿@松江（2013/3/22-23）
- ESEC（2013/5/8-10）
 - TOPPERSブース
- TOPPERSカンファレンス（2013/6/21）
- SWEST15：mrubyセッション（2013/8/22-23）
- TOPPERS TECS 合宿@福岡（2014/3/23-24）
- TOPPERS TECS 合宿@有馬（2015/3/22-23）
- SWEST17：mrubyセッション（2015/8/27-28）
- **mruby向けEV3プラットフォームの構築**
ETロボコン認定プラットフォーム



EV3用プラットフォーム

https://www.toppers.jp/tecs.html#mruby_ev3rt



TECSの適用イメージ③：他言語（mruby）との連携

mruby：組込みシステム向けにRuby軽量化したスクリプト言語
プログラマはプラットフォーム側（C言語）の知識がなくても利用可能

アプリケーション
mrubyプログラム

アプリケーション
mrubyプログラム

連携用のコードを自動生成

mrubyブリッジコード

TCP/IP
プロトコル
スタック
(TINET, ...)

ファイル
システム

各種
ドライバ

その他の
ミドルウェア
(オープン／商品)

カーネル
(TOPPERS/ASP, HRP2)

プラットフォーム

TECSコンポーネント

mruby⇒TECSブリッジ

補足：mrubyプラットフォームでは、setPowerをpower=にリネームして利用

- mruby ⇒ C 言語のI/Fの自動生成

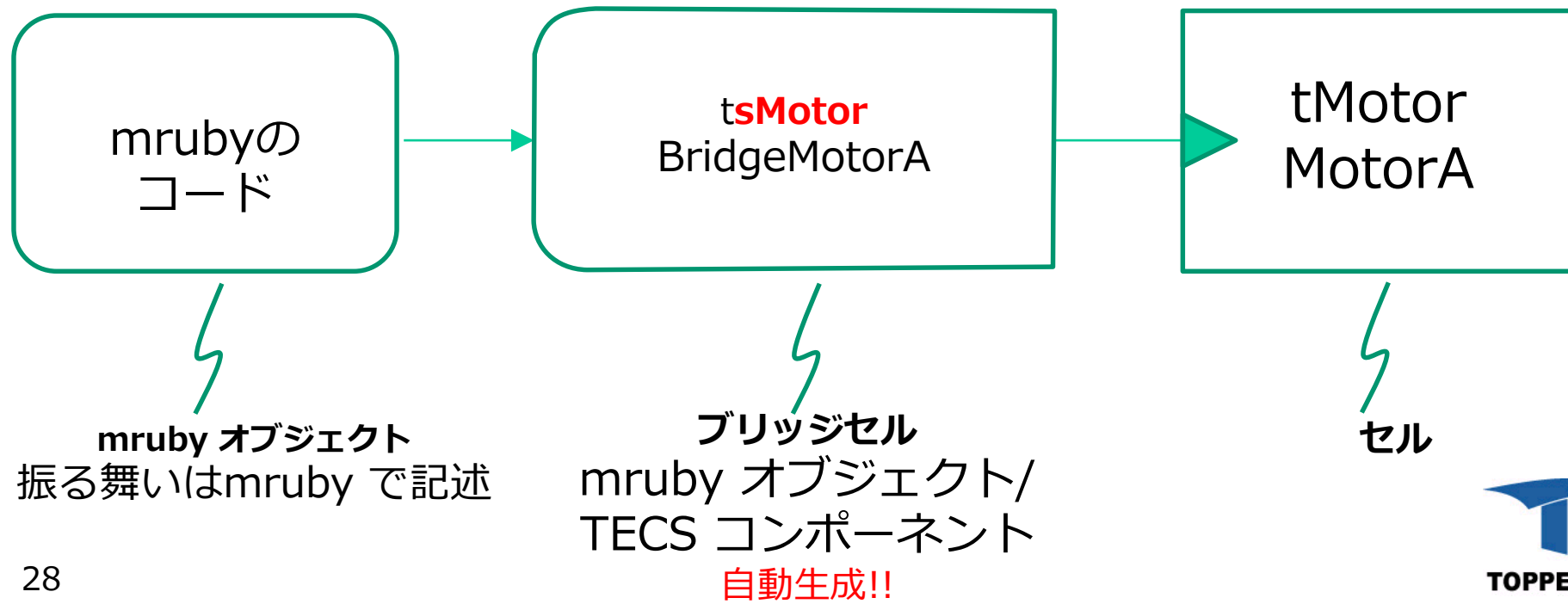
- TECSのインタフェース定義を利用
下記はモータを利用する例

モータのインタフェース定義

```
signature sMotor{  
    ER setPower([in]int power);  
    ER stop([in] bool_t brake);  
    ...  
};
```

(呼び元=クライアント側)

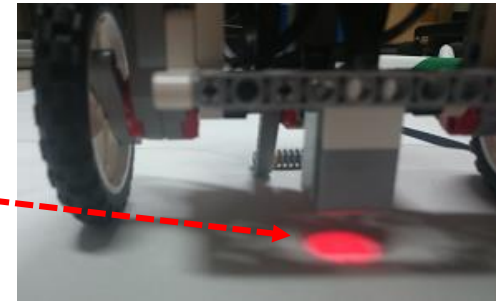
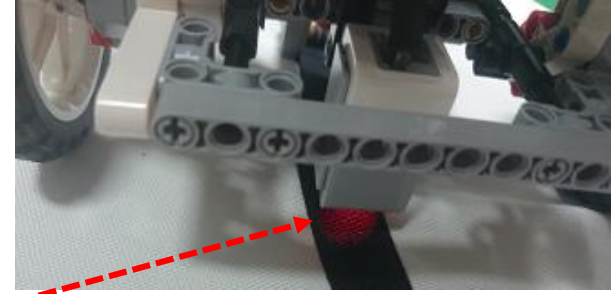
(呼び先=サーバー側)



ev3way_sample

● 操作手順

- 電源を入れる
- 黒色のライン上にカラーセンサを移動
- タッチセンサを押す：黒色の値を取得
- 白色の上にカラーセンサを移動
- タッチセンサを押す：白色の値を取得
：しっぽを下ろす
- ライン上移動
- タッチセンサを押す：ライントレーススタート



ev3way_sample.rb : 初期化

begin

```
LCD.puts "ev3way_sample.rb"  
LCD.puts "--- mruby version ---"  
Speaker.volume = 1  
forward = turn = 0
```

ひとつしかないもの（ポート番号指定不要）は、クラスメソッドとして直接呼び出す

initialize sensors

```
$sonar = UltrasonicSensor.new(SONAR_SENSOR)  
$color = ColorSensor.new(COLOR_SENSOR)  
$color.reflect  
$touch = TouchSensor.new(TOUCH_SENSOR)  
$gyro = GyroSensor.new(GYRO_SENSOR)
```

initialize motors

```
$motor_l = Motor.new(LEFT_MOTOR)  
$motor_r = Motor.new(RIGHT_MOTOR)  
$motor_t = Motor.new(TAIL_MOTOR)  
$motor_t.reset_count
```

ポート番号を指定して初期化（インスタンス化）

Signal calibration

```
LED.color = :orange
```

...

ev3way_sample.rb : 黒色、白色の取得

Calibration

\$black_value = color_calibration

LCD.puts "black::#{ \$black_value}"

\$white_value = color_calibration

LCD.puts "white::#{ \$white_value}"

ライントレースの
基準値を計算

threshold = ((\$black_value + \$white_value) / 2).round

wait start

LCD.puts "Ready to start"

タッチセンサが押されるまで待つ

カラーセンサn回取得し、
平均値を取得

```
def color_calibration(n=10)
  loop {
    break if $touch.pressed?
    RTOS.delay(10)
  }
  col = 0
  n.times { col += $color.reflect }
  col = (col / n).round
  Speaker.tone(:a4, 200)
  RTOS.delay(500)
  col
end
```

ev3way_sample.rb : スタート準備

```
# wait start
```

```
LCD.puts "Ready to start"
```

```
loop {
```

```
  #initialize tail
```

```
  tail_control(TAIL_ANGLE_STAND_UP)
```

```
  RTOS.delay(10)
```

```
  # Touch sensor start
```

```
  break if $touch.pressed?
```

```
}
```

```
# reset motor encoder
```

```
$motor_l.reset_count
```

```
$motor_r.reset_count
```

```
# reset Gyro sensor
```

```
$gyro.reset
```

```
# Signal start status
```

```
LED.color = :green
```

しっぽの位置を指定された角度に保つ
(フィードバック制御)

```
def tail_control(angle)
```

目標値

現在の値

```
pwm = ((angle - $motor_t.count) * P_GAIN).to_i  
pwm = (pwm > PWM_ABS_MAX) ? PWM_ABS_MAX :  
(pwm < -PWM_ABS_MAX) ? -PWM_ABS_MAX : pwm  
$motor_t.power = pwm  
$motor_t.stop(true) if pwm == 0
```

```
end
```

ev3way_sample.rb : ライントレース

障害物まで一定の距離以下になると止まる

main loop

forward = turn = 0

loop {

start = RTOS.msec

up tail

tail_control(TAIL_ANGLE_DRIVE)

if **sonar_alert**

forward = turn = 0

else

Line trace

turn = \$color.reflect >= threshold ? 20 : -20

forward = 30

end

...

}

サンプルでは、30に固定

def **sonar_alert**

\$sonar_counter += 1

if \$sonar_counter == 10

distance = \$sonar.distance

\$sonar_alert = distance <= SONAR_ALERT_DISTANCE

&& distance >= 0

\$sonar_counter = 0

end

\$sonar_alert

end

カラーセンサと閾値と比較し
どちらかに曲がる
ここを変更すると、
自前のライントレースが可能

ev3way_sample.rb : 倒立制御

```
# main loop
```

```
loop {
```

```
  start = RTOS.msec
```

```
  ...
```

```
  # call balance control API
```

```
  pwm_l, pwm_r = Balancer.control(  
    forward.to_f,  
    turn.to_f,  
    $gyro.rate.to_f,  
    GYRO_OFFSET,  
    $motor_l.count.to_f,  
    $motor_r.count.to_f,  
    Battery.mV.to_f)
```

```
  $motor_l.stop(true) if pwm_l == 0
```

```
  $motor_l.power = pwm_l
```

```
  $motor_r.stop(true) if pwm_r == 0
```

```
  $motor_r.power = pwm_r
```

```
  wait = 4 - (RTOS.msec - start)
```

```
  RTOS.delay(wait) if wait > 0
```

バランスの返り値が2つ

C言語で実装されたバランスを呼び出す

4ミリ秒周期で実行
現状1ミリ秒程度で処理完了
mubyでも十分制御可能

わからないときは

- TOPPERS 会員の皆さま
 - com-wg@toppers.jp ... TECS WG の ML
 - dev@toppers.jp ... 開発者 ML
- 非会員の皆さま
 - users@toppers.jp ... ユーザー ML